

正直光明思想～嘘をつかずに生きられる祈りの道～

2011年4月17日 於：神奈川集会

正直に生きよう

【正直光明思想】

業想念を嫌って、「業想念をなくそう、消そう」という想いは、エゴの業想念ではなく、これは本心からくる想いです。清らかな本心が汚い業想念を嫌うのは当然のことであるのです。また、嫌うという感情には「本心を嫌う業想念」というのもあるのです。業想念は本心の光明を嫌って本心を攻撃し、自分がやった悪いことを他人にもするようにそそのかす人がいるものです。

嫌な他人や嫌な事柄に関して、「嫌だ」という想いを自分の意思力で消すことは、そう簡単なことではありません。味噌もクソも一緒に見て、すべてを美しいと無理に思い込むのではなくて、美しいものは美しい、汚いものは汚い、好きなものは好き、嫌なものは嫌だと思ってよし、思ってもよろしいのです。その方が自分に嘘をつく必要がなく、自分の気持ちに正直でしょう？ 嫌なものは正直に嫌だと思っていいから、次に「ああ、これは消えてゆく姿だ」と思って、自分では消せないから、その嫌なものを「世界平和の祈り」の中に入れて、守護の神霊に消し去っていただくのです。そうすると、時間が経過するにつれて、嫌な現象も自分の目前から消えてゆくということになるのです。これが五井先生の「消えてゆく姿」の教えであり、正直光明思想（中庸光明思想）であるのです。

【相手の天命を祈るには】

「人即神也」とは、「あなたは神である。あの人は神である」と真理を宣言することで、そんなに簡単に安易に口に出せる言葉ではないのですが、光明思想家を自称する多くの宗教家は、それが誰でもいとも容易にできるように教えているのです。余りにも安易に真理の言葉を口にしてしているのです。

たとえば「森島恒吉さん即神也」ということは、「森島恒吉さんが神の子になりますように」という意味ではなく、「森島恒吉さんは完全な神である」という宣言の意味なのです。ところが、そのような教えを信じる人たちは、口先では「森島恒吉さんは神である」と言っただけでも、心の中では「森島恒吉さんは神ではない」と思っているわけです。私を本当に神であると思っていたら、私を信じられないわけがないからです。私を信じられないということは、「森島恒吉さんは神ではない」と心の中では思っているからなのです。

潜在意識の方が表面意識よりも強いのですから、どんなに表面意識で「森島さんは神である」と宣言しても、潜在意識で「いや、森島さんは神ではない」と思っていたら、潜在意識が勝ってしまい、いつまでたっても「森島さんは神である」と心の底から思うことはできません。潜在意識はその人の嘘を見抜いて、本音のままに働くものであるからです。

潜在意識が納得しなければ、いつまでたっても思った通りにはなりません。ですから、そうした暗示法や心からのものではない真理宣言法は、潜在意識が協力しないのですから、効果がないと言えるわけです。

「あなたは神である」と本心では思ってもいないのに、形式的に相手を拝むやり方は、自己矛盾であり、偽善であることを知らなくてはなりません。自己の内面を正直に見つめればその矛盾が分かるはずなのです。そうした偽善的な形式行に把われているうちは、いつまでもその人の神性は開くことはないのです。「あなたは神である」という真理を宣言する方法は無理があり、いずれ行き詰まってくるのです。

五井先生は、友人への神性開発の祈り方をこのように教えて下さっています。

守護霊さま、あの人の本心が現れますように
守護霊さま、あの人の天命が完うされますように
守護霊さま、あの人の業が消えて本心が現れますように
守護霊さま、あの人の神性が現れますように
守護霊さま、あの人の本来の神の子の姿が現れますように

このような祈り方によって、自然に無理なく相手の神性は開発されてゆくのです。嘘をつかずに正直に生きられる祈りの道が五井先生の祈り方であるのです。「世界平和の祈り」は、無理なく偽善ぶらずに正直に生きられて、一番易しく神性を顕現できる方法であるのです。

【現実から理想へと歩もう】

理想を直ぐに現実に実行するのは難しいものです。無理に理想を実現しようとすると、苦しむことが多いのです。かといって理想を失ってははいけません。そこで、現実にできることをやってゆき、お祈りをすることによって、マイナス面を守護の神霊に浄めていただきながら、少しずつ理想へと向かってゆくという生き方が、現実と理想を無理なく結ぶよい生き方であると私は思います。

業想念が消え去った後には輝ける本心が残る

【ご質問-1】〔自分にとって悪いものだけが消えてゆくというのではないと思うのだが〕

自分にとって“良い”とされる感情は残しておいて、“悪い”とする感情だけが消えてゆくのではないですか？ それでは自分勝手ですか？ 私はそうと思いますが、いかなもののでしょうか？

【お答え-1】〔善想念を神様に消していただいたら、より大きな幸せが現れてくる〕

何が良いのか、何が悪いのか、肉体人間には判断できないことが多いのです。本人が「良い」「幸福」と思ったことでも、神の目から見たら「悪い」「不幸」なことかも知れません。また逆に、本人が「悪い」「不幸」と思ったことでも、神の目から見たら善くなる喜ばしい前兆かも知れません。

ですから、善悪の感情すべてを一度は「世界平和の祈り」の中に入れて浄めていただくとよろしいのです。すると、悪は消えてゆきますし、古い小さな善は消え去ってゆき、より大きな善となって現れてくるのです。善想念を神様に消していただいたら、幸せが消えてしまうのではなくて、より大きな幸せが現れてくるのですから、神様にすべてを消していただいても少しも心配はいらないのです。本心は永遠に消えないのです。不完全な姿が消え去った後、最後に残るのは、神の真・善・美・愛が残るのです。

空観の方法について

【ご質問-2】〔嫌なものを消すのではなく、それを受け入れて手放すのが正しいのでは〕

本心（真我）の意識というものは、良いとか悪いとか、好きだとか嫌だという価値判断や感情というものは存在せず、すべてがそのまま、ありのまま大調和していると思うのです。ですので、「嫌だから消そう」ということではなくて、「許し、受け入れ、愛して、包み込むような意識の中で、もう必要ないから手放す」というのが真我の意識なのではないでしょうか？ その対象に対して「嫌だから消そう」という不快な感情、忌み嫌う意識というものは、あくまでも肉体自我の想念だろうと思うのです。五井先生のおっしゃった、すべてのすべては大調和の大光明の神様の御心の中に存在しているというお話が、ここで辻褄が合うように思えてなりません。いかがでしょうか？

【お答え-2】〔五井先生は、誰にでもできる易しい「世界平和の祈り」の道を説かれた〕

おっしゃる通り、本心と感情とは違います。本心の中に感情想念は存在しません。本心は完全円満で大調和しておりますから、悪も嫌なものも、そうした不完全なものは一切存在しておりません。しかし、完全な世界になる過程の段階にある現在の肉体界には、長いトンネルを掘っている時にたくさんの泥が出るように、悪も嫌なものもたくさん存在しているわけです。肉体人間の想念の中には、聖者をのぞいて、普通の人々の幽体（潜在意識）には、過去世からの善悪含めた感情想念が多く蓄積されているのです。悪が存在していると申しても、感情想念が蓄積されていると言っても、それらは実在ではないのですから、いずれは消えてゆくのですが、現在では確固として存在しているように見えるわけです。

そして、その業想念の消えてゆく姿に対して、昔から多くの聖者賢者が、どうしたら扱われないで、大調和している本心だけを見つめていられるかと、色々自分で工夫したり、守護の神霊から自分に合った修行法をインスピレーションで授かって、業想念の渦から解脱して真我を発見することに成功し、その道を弟子に伝えたのです。それが世界の各宗教となって、数千年と連綿として今に伝わっているわけです。つまり、真我を現すには種々の道、方法がありまして、《すべてを許し、受け入れ、愛して、包み込むような意識の中

で、もう必要ないから手放す》というようなあなたのやり方でも、それで真我を現すことが可能ならば、その方法で行じても結構なのです。

真我を見つめている人は、相手を許すも許さないもないし、相手を受け入れようという意識も、愛してあげようという意識もないし、相手を包みこんでやろうという意識も持たずに相手を愛することのできる心境の人なのです。そうした心境の人にとっては、相手の業想念を手放してあげようという人為的な意識さえもなく、自他一体観の境地にあり、自分一人高見に立ったような意識さえも既にはないのです。

すべての業想念に把われず、本心である真我をひたすら見つめてゆく方法は、釈尊の説いた空の行法であり、その空になる行法にも、大きく分けると自力行と他力行の二つの道があるのです。あなたのお考えのその方法は自力で空の境地に至る方法で、座禅の修行法と同じやり方であるのです。その方法は間違った方法ではありませんから、その方法がご自分に合っていると思ったら、その道をお進みになったらよろしいのです。過去世で座禅修行をなさった方は、この世においてもまた同じ形式の修行法をやりたくなるもので、そうやって何代もかけて自分に合った一つの道を精進してゆくものなのです。

但し、そのような方法は、あなたにはできることであっても、誰でもできることではありません。大半の一般衆生は、「良いとか悪いとか、好きだとか嫌だ」という価値判断や感情というものが存在していて、「本心は大調和している」とは思えないし、本心を信じることもできないのです。多くの普通の人々は、他人を許せないし、愛せないし、受け入れることはできないし、包み込むこともできないし、相手の悪を手放すこともできないのです。上根（じょうこん＝生まれつき魂の高い人）をのぞいて、下根（げこん＝生まれつき魂の低い人）の普通の人々は、不快な感情を持っているし、忌み嫌う意識を持っている凡夫であるのです。《すべてのすべては大調和の大光明の神様の御心の中に存在している》とは思えない心境の人々ばかりなのです。

そうした下根の凡夫の人々には、何よりも難しい方法であっては救われません。悪も不完全な姿も、真実には存在しないものなのです。実相から言えば悪はないものなのです。しかし、そんなことを言っても、普通の人々には理解できません。そこで五井先生は、理想と現実を結ぶために、悪がこの世に存在していることを一度は正直に認めつつ、時間の経過とともに、すべての悪や不完全な現象は消えてゆくのであると、業想念を漸次否定してゆく方法を発見されたのです。しかし、こうした中庸の業想念否定論も、これだけでは未だ一般衆生には難しく、現実の日常生活における苦悩を解決する手段とはなりえません。

そこで五井先生は、法則としての神の他に愛の働きとしての神である守護の神霊による救われの道、他力易行道を説かれたのです。その具体的な方法が、守護の神霊の加護を願う祈りの道、個人人類同時成道の「世界平和の祈り」の道であるのです。この「世界平和の祈り」を祈り続けておられますと、直ぐに高い心境に行けるわけではありませんが、無理なく自然に楽に苦しまずして、いつの間にか誰でも聖者と同じ立派な境地へと導かれてゆくのです。

以上のことを知って、あなたに合った方法で空観の修行をなさったらよろしいと思います。また、空観をする場合、善き指導者につかないと憑依霊につかれる危険がありますから、空観は一人でなさらないで、善き指導者を見つけて、その師について空観修行をなさることです。いずれのやり方にしましても、守護霊さま、守護神さまのご加護を祈った上で空観修行することが大事です。

嫌な相手も「世界平和の祈り」の人類の中に入っている

【ご質問-3】 [合わない相手と別れた後にどのようにして理想に向かってゆけばよいのか]

森島さんは、掲示板で《ケンカばかりして争っている夫婦は、さっさと離婚して、自分にあつた異性を見つけたほうが良いのです。交際相手の友人も、自分とは合わないと思つたら、やはりさっさと別れて、自分の気に合つた友人を探すことです》とお書きになっていらっしゃいますが、これは、“少しずつ理想へ向かつて行く”という態度というよりも、気に入らないものはスパッと切り捨ててしまえ、というような感じを受けるのです。さっさと別れてしまった後どのようにして“少しずつ理想に向かつて行く”のでしょうか？

【お答え-3】 [理想を直ぐに実行しようとせず、少しずつ理想に近づく方法の方がよい]

「夫婦はお互いを神の子として拝みなさい」と理想を説いたところで、刃物を持ち出して夫婦喧嘩をするような修羅場になる前に、現実問題として、業を積み重ねる前にさっさと離婚して、自分に適当な配偶者を改めて探した方がよいのです。過去世の因縁によっては、何回も離婚をしてようやく幸せな結婚ができるという運命の人もおりますし、二組の夫婦が不幸せな結婚を解消して自分に適当な配偶者と再婚すれば、四人が幸せになれるのですから、その方がよいと思うのです。

「嫌いな相手を好きになる」ということは理想ですが、そんなに簡単ではないことを私はよく知っております。特に暴力をふるったり、ストーカーや暴言を吐く相手とは、スパッと関係を切り捨てて、自分に合つた新しい友人や交際相手を求めた方がよいと思います。しかし、それだけでは誰でもする当たり前のことです。私たちは、別れた人のために相手の天命の完うを祈り、守護の神霊にお互いの因縁を浄めていただき、「世界平和の祈り」を祈ることが必要です。

悪因縁のある者同士は、顔を合わせただけで嫌になるもので、その場合は、空間的な距離をおいて、相手から離れて「世界平和の祈り」を祈れば、世界人類の中にその嫌いな人間も入っているわけですから、不愉快な想いを感じないで、しかも知らないうちにその嫌いな人間の幸せを祈っていることになりますから、いつしか悪因縁が消えると同時に、すべての人と仲良くなれる日がくるのです。

このように、理想を直ぐに現実に実行しようとしないで、嫌な人は嫌な人と認めて、「世界平和の祈り」によって少しずつ少しずつ理想に向かつてゆく方が、お互いあまり苦しまず嫌な想いをしないで理想に近づいてゆくことができると私は思います。

自分に合った道を行けばよい～あなたはあなたのやり方でよいのです～

【ご質問-4】〔自分の中の許せない思いを無くさない限り、問題から逃れられないのでは〕

“嫌な人は嫌な人と認める”ということは、「あの人は嫌な人なのだ」と決めつけることではないと思うのです。あくまでも“自分が”その人のことを嫌っている、嫌な人だと思っているということなのではないでしょうか。つまり、自分がその人の存在というものを許せない、受け入れられない状態なのであるということだと思えるのです。どんなに我儘な人、身勝手な人、理不尽な人がいたとしても、自分がその人の存在によって悩み苦しむということであるならば、それは間違いなく自分の心の問題だと思えるのです。だから、嫌だから別れる、縁を切るということよりも、まず自分の中の許せない気持ち、その人に対する怒りや拒絶する思いこそを手放して浄化してしまわなければ、同じような人や状況が後から後から際限無く現れてくると思うのです。

【お答え-4】〔あなたに合った、あなたの好きなやり方を実行したらよい〕

そういう宗教観もあります。それは決して間違いではありません。あなたがそのやり方で納得されているのであれば、それをなさったらよいと思います。すべてを自分の責任とするわけですね。それは大変立派なやり方です。しかし、あなたにはできても、凡夫の私にはそうした方法はとてもできません。

私の場合には、嫌な人と別れず、嫌な人と縁を切らないと、いつまでも同じような状況が後から後から際限なく続きます。嫌な人は嫌な人と認め、赦せない人は赦せない人と認め、嫌な人とは別れ、赦せない人とは別れることによって、余計な苦しみ悩みから解放されます。そして私は、嫌な人のため、そして赦せない人のために「世界平和の祈り」を祈っているのです。もちろんこれは、ご参考までに私のやり方を皆さんに話しているのでありまして、あなたはあなたのお好きなやり方でなさったらよいのです。

前にも申し上げましたが、あなたには、あなたの納得する、あなたのお好きなやり方で霊性開発をなさればよいのです。但し、先にも書いたように、あなたには簡単にできることであっても、他の人には難しいことがあるのです。それを理解してあげてください。あなたに反対しているわけじゃないんですよ。あなたはご立派です。ただ、あなたと違って、私はいつも凡夫の立場で易しい方法を説くことに努めているのです。

参考：五井先生の真実と嘘のお話

【五井先生の絶筆だった「嘘について」】

「五井先生は嘘をつくのですか？」というご質問がありましたので、ここでお答えしましょう。

五井先生の根本的な教義や「世界平和の祈り」についてはすべて真実であります。個人指導や相手によって、時によって嘘をつくということがありました。それは、五井先生ご自身の天命を活かすための嘘と相手を活かすための嘘があります。

なお参考までに、「嘘について」というテーマは、正確には「世界平和の祈りに全託を」という題名ですが、五井先生の絶筆となったご法話の中にあります。このご法話は『世界人類が平和でありますように』という本の巻末に採録されているのですが、殆どの人知らないお話です。

【五井先生の教義は真実であり嘘はない】

五井先生は正直な方でした。その正直さは五井先生の教義によく表れています。五井先生の光明思想を他の宗教者の光明思想と区別して、私は「正直光明思想」と名付けております。なぜ正直光明思想というのかと言えば、理想（真理）は目標として掲げながらも、現実のありのままを直視して、「現在の人間の姿や世界は理想が現れるまでの過程の姿であり、不完全な姿はすべて消えてゆく姿なのだ、時間が経つに従って不完全な姿は消えてゆく、人間本来の完全な神の子の神性が現れてくるのだ」というふうに、現実には正直に生きられる光明思想であるからです。

それに対して偽善的光明思想とは、理想（真理）を目標とする点は正直光明思想と同じであるのですが、理想（真理）をいち早く現実に現そうと焦る余り、現実を無視して、現実の不完全な姿に目をつぶり、時間経過を考えずに、「いま既に理想が現実になった」と思い込み、「私は完全である、世界は平和である。悪はない、病気はない、不幸はない、地震はない、戦争はない」と、偽善の宣言をする偽の光明思想のことを言うのです。このような偽善的な光明思想では、却って偽善の皮を厚くするばかりで光明心が顕現されません。そこで、五井先生は自己に正直に生きることを勧めているのです。

【聖者自身の天命を活かすための嘘】

ところが、その五井先生でも、個人指導の時や、相手や場合によっては、老子の《聖人は不仁（ふじん）なり。百姓（ひやくせい）を以て芻狗（すうく）と為す》という言葉のように、自己の聖者としての天命を優先して、相手によっては不仁に見えるような嘘をついたこともあったのです。もちろん表面的には不仁に見えても、聖者の行為には常に仁（愛）の光が輝いているのは事実です。なお、このような方便上の嘘というのは、まだ神の子になってもいないのに、「私は神の子、完全円満、悪なし、不幸なし、病気なし、災難なし」と宣言する偽善的な嘘とは全く別の嘘であるのです。

たとえば五井先生に会うなり、五井先生の道の話をしるくに聞きもしないで、「五井先生はどんな有名人と付き合っていますか？」と尋ねてきて、「私のところに来ている人は、

毎日の生活に困るほど貧しかったり、病気で苦しんでいたり、悩みを抱えている人たちで、みんな身分や地位の低い人ばかりです。大金持ちの人や地位の高い有名人は一人もおりません」と五井先生が答えますと、さもがっかりした顔をして、五井先生の「世界平和の祈り」の話を聞かずに、そそくさと帰ってしまう人がおります。この場合は、五井先生が「こういう人は今生では救われない」と思い、このような人と交際して貴重な時間を費やしてはもったいないと神様の方でも判断されて、このような嘘について突き放してしまったのです。本当は、五井先生の人脈には有名な政治家もいれば有名な実業家も存在しているのですが、相手を見て時々このような嘘をつかれたのです。こうした虚栄心の強い人とか威張った人を五井先生は大嫌いだったので、適当な嘘について切り離してしまわれたのです。

【犯罪になる嘘については嘘と見抜く目を持たねばならない】

犯罪になる嘘があります。人を騙して金を奪う寸借詐欺、結婚する気がないのに「結婚する」と嘘をついて女性を騙す結婚詐欺のような嘘があります。また、善良な訪問者を装って、家の人をドアを開けたら押し入る強盗とか、善意でお酒を飲ませるふりをして睡眠薬や覚醒剤を入れて乱暴するという嘘もあります。このような悪質な嘘については、私たちは騙されないように嘘を見抜く目を持たねばなりません。先日も、ロサンゼルスのホテル内で不用意にドアを開けてしまい、日本人が強盗に襲われたという事件がありましたが、このように相手の口先の言葉を鵜呑みにしてはいけませんので、「ちょっとおかしいな」と感じたら疑ってみる必要があります。守護霊に日頃から加護を願っておりますと、守護霊が「この人を信じてはいけませんよ」と囁いてくれたり、危険な時には「ドアを開けてはいけません」と手を引っこませたり、悪意を持った人には会わないように時刻をずらしたりして、犯罪に巻き込まれないように未然に防いで下さるものです。

また逆に、相手は真実のことを話しているのに、自分の未熟な判断で相手の言っていることを嘘と思い込んだり、自己過信してむざむざと事故に巻き込まれてしまうこともあります。これもやはり先日のニュースでありましたように、溪流の中州でキャンプをしていた人たちが、激しい雨が降り続き、上流のダムからの大量放水によって、猛り狂う激流に呑み込まれて、多くの生命が失われた惨事が例としてあげられます。昨年も水害があつて「危険」と立て看板があり、ダムの放水を警告するサイレンが鳴り響き、「ダムの放水が予想される」として、避難するように警察署員が何度もハンドマイクで警告したにも拘らず、その中州でキャンプをしていた人たちは何と答えたか。「なに言ってるんだ。我々は大丈夫だよ」「危なくなったら逃げるから放っておいてくれ」「いつでも岸に戻れるから大丈夫」と答えたと言います。他人の善意の警告に対して、自己の欲望や、「大丈夫、大丈夫」「できる、できる」という自己過信の想念がありますと、相手の真実の声が聴こえなくなってしまうのです。自己過信ほど危険なことはありません。真理に把われた人というの、「悪人はない、災難はない」と思っておりますから、無防備になってしまい、自己過信の人と同様に非常に危険であると私は指摘しているのです。

【相手を活かすために五井先生は嘘をついたことがあったのか？】

相手を活かすための嘘もあります。たとえば実際例を出しますと、ある相談者が「この事業をしたいと思いますが、成功できるでしょうか？ 五井先生が『成功できる』と太鼓

判を押して下されば、私はこの仕事をやってみたいと思います」と五井先生に相談した時、「それは必ず成功する。その事業は成功するし、金も儲かるよ、ぜひおやりなさい」と五井先生がお答えになったことがあります。この場合、成功する人と失敗する人の二種類の結果が出ます。五井先生が「成功する」と約束して下さっても失敗することがあるのです。失敗した場合は、五井先生の霊覚が誤っているのか、五井先生が嘘をついていたのか、その人の努力が足りなかったのかのいずれかになります。五井先生の霊覚は正しくて、その人の努力が十分に為されたとしたならば、残るは五井先生が「嘘をついていた」ということになります。

【五井先生の嘘と斉藤秀雄氏の大失敗の理由】

「それはよいから、おやりなさい」と五井先生に言われて成功した人の例が村田正雄氏であり、村田氏は五井先生に励まされて、苦難の末に歯科用電気炉を発明し、それを事業化して大成功をした人です。また、同じように「それはよいから、おやりなさい」と五井先生に言われて大失敗した人の例が斉藤秀雄氏であり、斉藤氏は、五井先生に「成功できる」と約束されたにも拘らず、次から次へと新事業を失敗し続けたのです。五井先生は、村田氏には真実のことを話し、斉藤氏には嘘をついたわけです。

五井先生は、なぜ斉藤氏には嘘をついたのでしょうか？ それは事業をやらせ、失敗させることによって、斉藤氏に過去世からの業因縁を大きく消滅させようとして五井先生は嘘をついたのです。最初から「これはやっても失敗する」と言ってしまったら努力しません。この辺の事情は、私は斉藤氏から直接何度もお聞きしたことがあります。

斉藤氏には、ご自分でおっしゃっていましたが、非常な事業欲がありまして、新しい事業を見つけてきては五井先生に相談していたのです。するとその度に「うん、それはいいね。ぜひおやりなさい」と五井先生に言われたと斉藤氏は述懐されていました。ところが、五井先生が保証して下さったにも拘らず、その仕事は失敗したのです。普通の人だったら、一度外れたらもう二度と相談にはこないところですが、斉藤氏は非常に素直な人で、「五井先生は写真に丸い光の玉が写ったほどの大霊覚者だ」と信じて疑いません。それで次の新しい仕事を相談してくる。するとまた五井先生に「それはいい。今度こそ成功するよ。ぜひおやりなさい」と励まされて、相談するついでに五井先生からお浄めを受けて帰る。そうした失敗が、何度も何度も、何年も何年も続いたのです。

それから数年たって、斉藤氏は五井先生にお尋ねしました。

「五井先生、…私は五井先生を信じて、五井先生が必ず成功するよとおっしゃって下さるから、私は新しい事業に次々と手を出して全力を尽くしたつもりでしたが、すべて失敗してしまいました。これはなぜなのでしょう？ 私はよほど業が深いのでしょうか？」

「斉藤さん、それはね、あなたが私と一緒に宗教活動をする天命があるからなんですよ。あなたの過去世からの業を浄めるためもあるけれど、何をやっても失敗したのは、もう金儲けを諦めさせて、世界平和の祈りを広める仕事をあなたにさせたいと神様が思っていたからなんです。ところが、あなたは金儲けをしたいと考えていたでしょう？ その思いがなくなるまで失敗を体験させたのです」

それを聞いて、斉藤氏は五井先生のみ教えを伝道することに専念するようになり、会の理事長となったのです。五井先生も霊修行の時代に守護神からさんざん嘘をつかれたものですが、それも試練の嘘であったのです。このように守護神による試練のための嘘というものがあるものなのです。

【五井先生が嘘をついた例】

(1) ある奥さんが「夫と離婚したい」と五井先生に相談にきた時、「それは直ぐに離婚しなさい。あんたの夫はほんとにひどい奴だね。そんな悪い男はいない。さっさと別れなさい」と五井先生が言うと、「五井先生、私の夫のことをそんなに悪く言うなんて、五井先生ってひどい。五井先生にわたし幻滅したわ。もう五井先生なんかに相談しないから」と怒って帰った奥さんがいました。

しかし、結局その夫婦は離婚しなかったのです。「離婚したいと言ってくるから、それなら仕方ないから離婚しろと言えば、意地を張って離婚しないし、離婚するなって言えば、逆らって離婚してしまうものです。だから、その人のためには逆のことを言ったりすることもあるのね。それで五井先生が悪者にされてしまうこともある。でも、皆さんが幸せになればそれでいいんだよ」と、五井先生はお話になっていました。

(2) ある人が、「私は五井先生よりもすごい霊覚者を見つけたんです。その先生は、五井先生よりも何でもよく当たるんですよ。その先生について行ってよろしいですか？」と五井先生に尋ねました。すると五井先生は、少しも怒らずにニコニコと聞いていて、「ほう、誰なの？ そんなに当たるの。それは私よりも素晴らしい霊覚者だね。あなたはその人について行きなさい。もう私のところに帰ってこなくてもいいよ。その指導者は私よりも大変立派だから」とその人を見送りました。

しかし、皆さん、これは五井先生がよく使われた嘘なのです。うちの皆さんは、そうした嘘に騙されてはだめですよ。私も五井先生の真似をして、相手によってはこうした嘘をつくことがたまにあるのです。その一言だけを聞きかじって、五井先生や私から決して離れてはいけません。方便の嘘なんですから。

(3) 五井先生に宝くじの当選の番号、競輪競馬などのギャンブルの予想を聞いても、アテモノはすべて外れます。霊能力に興味のある人は、自分の過去世から来世、次に家族のこと、その後は友人知人、職場の同僚の運命ことなど興味がどんどんふくれ上がってきます。「職場の同僚のAさんとBさんが付き合っているようだけど、あの人たちは結婚するんですか？」とか、「CさんとDさんの仲はどうなるんですか？」とか、自分に関係のないことまで聞きたがるのですが、そうしたことを聞いても、すべて外れます。最初の頃は五井先生も本当のことを話して下さったのですが、「私は本心を開発させる宗教者であって、易者のようなアテモノ屋ではないんだ」とおっしゃって、ある時期から何を聞いても外れるようになってしまい、会員さんも、そうした興味本位のアテモノを質問しなくなったのです。

しかし、そうしたアテモノに外れたからといって、五井先生への信仰を失って、「世界平和の祈り」を失ってはいけません。自分の過去世を調べたり未来を予見したり、霊能力

で利益を得ようとする態度からは、真実の安心立命は得られないのです。未来予知でも当たらずにぬ方がよいので、もし当たったりしたら、予言予知に把われてしまい、不安動揺の方が多くなります。他人の運命や隠れた行為なども、知らない方がよいのに、霊能力で真実を知ったばかりに心を乱してしまい、怒りっぽくなったり、知ったことを黙っていられずにやたらに人にしゃべってしまい、人を傷つけてしまうことにもなりかねません。五井先生の教義と「世界平和の祈り」があれば、占いも予言も霊能力も必要ないのです。宗教の目的は守護の神霊への感謝を教え、愛深い人間になることを教えることにあるのです。

【「85歳まで生きる」は五井先生の嘘だった】

五井先生は「私は85歳までは生きる」と度々おっしゃっていました。私ももちろん信じておりました。しかし、実際には五井先生は63歳で他界されてしまったのです。ですから、しばらくの間、五井先生への信仰と事実の差に呆然として、五井先生が他界されたことを信じられなかったのは私だけではなかったでしょう。五井先生は、ご自身の他界する日を知らなかったのか、それとも知っていて嘘をついたのでしょうか。愛深い五井先生のことですから、私たちに余計な心配をかけさせまいと私たちを思いやって、五井先生は嘘をついて下さったのだと私は思います。そして、最後に「嘘について」の見解を述べられて他界したのは、いかにも正直な五井先生らしいと私は今にして思うのです。

古い会員さんになりますと、五井先生がこのような嘘をつかれることをよく心得ていて、五井先生が嘘をついても騙されなくなってしまう、「五井先生は嘘をつくから、そんなことは本気にしないわよ。五井先生は嘘つきなんだから、もう」とジョークとして笑い飛ばせて、「世界平和の祈り」を揺るぎない信念で祈れるようになるのですが、五井先生のこのような嘘のつき方を知らない人は、五井先生の真意を一生知らぬままに終わってしまうのです。五井先生が63歳で他界しようと85歳で他界しようと、そんなことはどうでもいいことなのです。予言をして人の運命を当てたりすることも、どうでもいいことなのです。「世界平和の祈り」以外のことはすべて枝葉であり、どうでもいいことであるのです。

【五井先生の真実とは「消えてゆく姿で世界平和の祈り」の教え】

五井先生の方便上の嘘に把われて、五井先生の真実の教えを見失ってははいけません。五井先生の真実とは、「消えてゆく姿で世界平和の祈り」の教えを皆さんに行じてほしいということであるのです。この教えは嘘ではありません。方便上の嘘でもありません。過去も現在も未来においても、五井先生の「世界平和の祈り」は真実であるのです。「世界平和の祈り」を祈っていて事業に失敗しても物事に失敗しても、「五井先生の教えは嘘だ」と短絡的に思わずに、「これは過去世の因縁の消えてゆく姿だ」と思い、「これから必ず善くなるのだ」と明るい希望を持つことです。事業に成功したら素直に感謝したらよろしいでしょう。成功しても感謝を忘れず、失敗してもめげずに、私たちは明るく生きてゆかねばなりません。人から騙されたり嘘をつかれても、「これも過去世の業が消えてゆく姿だ」と思い、「これで私の運命が善くなるんだ」と明るく考えることです。繰り返しますが、宗教とは占いでもアテモノでもありません。他人の心を読んだり、他人の運命を秘かに知ることでもありません。人並み優れた超能力を得ることもありません。私も相手を活かすために五井先生のように嘘をつくことがあるかもしれませんが、そんな時も、真実

と嘘を見分けて、私の嘘の言葉に把われなくなっていってほしいものです。宗教とは、神様に感謝し、人を愛する道であるのです。その具体的な行法が「世界平和の祈り」であり、霊性が開発されるにつれて、嘘に把われなくなり、真実が自ずと分かってくるようになるのです。